

デイケア通信

十一月号



二十四節季

立冬 十一月七日 冬が始まる。
小雪 十一月二十二日 雨が雪になって降る

世界のグルメ 天津飯

昼食に提供しますので「賞味ください」

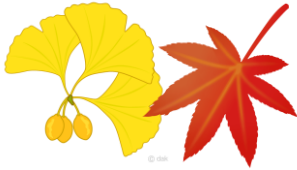
11月10日(金) 昼食に提供!



写真はあくまでイメージです。

11月主な予定

- 6日(月)～ 10日(金) 体重測定
- 10日(金) 世界のグルメ
- 15日(水) お楽しみ献立
- 20日(木) ご当地グルメ
- 28日(火) セレクト食



「こたつ」について

日本の冬の風物詩とも言われる「こたつ」昔から亥の子の日に火を入れると火事にならないと言われており、「こたつ開き」をする習慣があります。今回、こたつの歴史とともに、「こたつ開きの日」をご紹介します。

「こたつ」はいつ生まれた

日本のこたつは室町時代に囲炉裏の上に低い台を置き、着物をかぶせて使っていたが始まりとされています。

江戸時代に入ると、囲炉裏の上に檜を組んで布団をかけた「やぐらこたつ」や、囲炉裏を深く掘って布団をかけた「腰掛けこたつ」、火鉢と檜を組み合わせた可動式タイプなど、様々なタイプのこたつが生まれました。

明治時代になると、今にも残る「掘りこたつ」が登場します。イギリス人陶芸家のバーナー・ドリーチは正座が苦手だったことから、正座をせず、腰掛けるタイプのこたつを考え出したと言われています。

大正時代後期になると、炭火より安全な電気式のこたつが発売されましたが、当時はあまり普及しなかったようです。

一九五七年に座卓型(天板の裏に電気ヒーター付)の電気やぐらこたつが発売されると、またたく間に大ヒット商品となり、一般家庭に広く普及していきました。



「こたつ開き」とは?

昔から亥の子の日に火を入れると火事にならないと言われており、「こたつ開き」をする習慣があります。亥は陰陽五行説で火を制する水にあたるため、亥の月亥の日から火を使い始めると火事にならないとされました。

そこで、亥の子の日にこたつや囲炉裏に火を入れるようになり、「こたつ開き」と呼ばれて親しまれました。今でも、茶の湯では亥の子の日に「炉開き」を行うところが多く、新茶を初めて使う「口切り」をして「亥の子餅」をいただきます。

この「こたつ開き」にならない、亥の子の日に暖房器具を出すひとつの目安になっています。実際に使用するのは気温などにより異なりますが、この日にこたつ、ヒーター、ストーブなどの暖房器具を出して準備しておけば、縁起もよくて安心。昔ながらの知恵といえるでしょう。